

京都大学若手人材海外派遣事業 スーパージョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 27 年 3 月 12 日

1. 渡航者

| | | | |
|--------|-------------------------------------|------|----------|
| 氏名 | 木村 亮 | 採択年度 | 平成 26 年度 |
| 部局 | 医学研究科 | 電話 | |
| 職名 | 助教 | メール | |
| 研究課題名 | ウイリアムズ症候群の統合遺伝子ネットワーク解析 | | |
| 海外渡航期間 | 平成 26 年 5 月 13 日 ~ 平成 26 年 12 月 2 日 | | |

2. 渡航に関する情報

| | |
|--|---|
| 渡航先 | 国名：アメリカ合衆国 大学等研究機関名：カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校 研究室名等：Geschwind Lab 受入研究者名：Daniel Geschwind |
| 渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。 | 出張先：アメリカ人類遺伝学会 (サンディエゴ) 目的：情報収集と人的交流 期間：2014 年 10 月 18 日~21 日 出張先：International Professional Conference on Williams Syndrome (アナハイム) 目的：情報収集と人的交流 期間：2014 年 6 月 30 日 |

3. ジョン万プログラムによる成果

以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。ページ数については増加してもかまいません。

| | |
|---|--|
| <p>国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p> | <p>本プログラムによる渡航期間は、6ヶ月半という短期のものであった。 そのため、渡航期間中に論文を執筆するには至らなかったが、共同研究の進捗が順調であったため、帰国翌月より3ヶ月間の予定で再度渡米し、研究を継続することとなった。 データがまとまり次第、国際学術雑誌に論文を投稿の予定である。</p> |
| <p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施 (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p> | <p>今後、Geschwind 教授 (UCLA) および萩原教授 (京大) と検討する予定である。 ただし、現在はまだ具体化されていない。</p> |
| <p>国際研究ネットワークの新規構築／深化 (参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p> | <p>大学で行われていた各種セミナーや技術講習会、学会への参加を通じて、様々な研究者とのネットワーク構築につとめた。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p> | <p>受入先研究室の Geschwind 教授(M.D.,Ph.D.)は、UCLA CART(Center for Autism Research and Treatment)のディレクターも兼任していることから、私は研究室におけるデータ解析だけでなく、小児科・児童精神科・遺伝診療科との合同症例検討会といった臨床分野にも参加することができ、臨床と基礎研究を結びつける手法・組織運営について垣間見ることができた。また、ほぼ毎日、学内の各所で著名人を招いたセミナーが開催されており、新しい技術等を知る機会が豊富にあった。とくに、遺伝子データ解析については、技術講習会が大学でほぼ毎週開催され、未経験者も基礎から知識を習得できるよう配慮されており、大変勉強になった。</p> <p>研究室は30人前後の大所帯で、ポスドクや大学院生だけでなく、臨床医や学部生も出入りしており、非常に活気があった。また人種構成は多様で、多くの方がこれまでの経歴で得た手法とは異なる手法を学びながら、研究に取り組んでいるのが印象的であった。</p> |
| <p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p> | <p>特になし</p> |